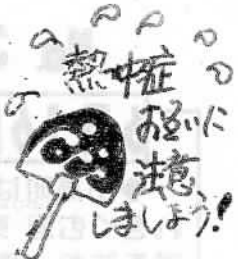


今年は東北南部
7月30日梅雨明け



九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No. 333
2019(令和元)年7月30日(火)発行

戦争中に内閣が定めた、食べられる“夏の七草”だなんて…

○第2次世界大戦末期の食糧不足を補うため、内閣情報局は1945年6月に「新選・夏の七草」を発表。○「藜あかさ・猪小槌いのこづち・苺ひゆ・滑莧すべりひゆ・白詰草しろつめくさ・姫女苑ひめじょおん・露草つゆくさ」の七種。○戦争は、天気予報も軍の機密にして公表禁止、ふだん食べない野草も不気味な昆虫も食べるように国民にすすめ、異常や狂気が日常になります。

参院選 国民は改憲を望んでいない 野党共闘での当選は市民運動の成果

◆7月21日(日)の参議院選挙の結果は報道のように、48.8%の低投票率の中、自民党は単独過半数を失い、改憲勢力の3分の2には届きませんでした。

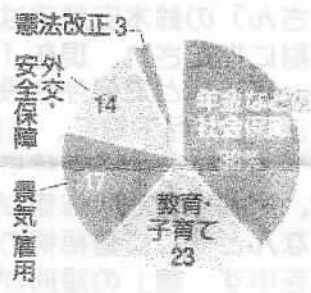
◆「改憲」をめざす与党に対し、私たち九条の会などの市民運動の力が大きく働き、一人区で野党統一候補が10名、しかも女性新人の当選は注目です。全国での「改憲NO!3000万署名」運動も、功を奏していることは明らかです。

◆「れいわ新選組」などの躍進は、国民の切実な生の訴えがネットや街頭演説会で聴衆の共感を呼び、新しい風として「九条の会」活動にも学ぶべき点が多くありそうです。

秋の国会で憲法審査会を強引に再開か

◆それでも自民党や安倍首相は、「憲法改正を進める信任は得られた」と勝手に吹聴し、秋の臨時国会で強引に憲法審査会を再開したいと語っています。しかし大多数の国民は、生活の安定や世界の平和が優先で、今後の野党共闘や市民運動の展開で「改憲」は絶対に阻止しなければなりません。

◆安倍首相は経済も外交もすべて失敗し、実は「改憲」を政権維持の推進力にするしかない状況にあるのではないか。



安倍首相が一番、力を入れてほしい政策は、その他答えたのは皆無

参議院選挙直後の朝日新聞社の世論調査で、「安倍首相に一番力を入れてほしい政策」は、へ上へのグラフのように、改憲はわずか3%で、国民は安倍首相の思惑とは全く違います。(7月24日「朝日新聞」)

社会保障38% 改憲3%

安倍首相に一番望む政策は

映画「明日へ - 戦争は罪悪である -」

『日本の青空』シリーズ4作目の映画。アジア太平洋戦争の時代、拳国一致、国家総動員のかけ声で自由な言論が抑圧されたが、良心として戦争反対を訴えた一人の僧侶がいた。宗門からの懲戒、特高警察による逮捕・投獄・・・監督藤嘉行、出演中原丈雄・上条恒彦・小倉一郎。
○福島市では、福島市九条の会連絡会(福島県九条の会など)の主催でフォーラム福島・8月2日(金)～8日(木)上映。
○仙台市でも8月に上映が予定されています。



6月16日・若松丈太郎氏講演会・要旨 **その2** (その①は、No.332に)

◆小高町は昔から俳句が盛んで、父の良雄も俳人で、号は余生でした。明治時代の正岡子規の流れをくむ河東碧梧桐は、1906(明治39)年11月7日相馬市の俳人たちと会い、8日は松川浦を訪ね、夜は小高の銀行員で俳人の大曲駒村宅に泊まる。9日朝に駒村の案内で、面識は無かったが俳句の上では知己の良雄(余生)の墓に参り、「哀れなる人に時雨の句を申す」と亡き人余生に対して詠み、さらに余生の妻ルイと娘テル、2歳の安蔵にも会い、「我を見て泣く人よ寒し我も泣く」の句を詠みました。これは碧梧桐の17カ月に及び東北、北海道、北陸の旅行記『三千里』に述べられていることです。

◆ところで、小高区仲町1丁目67(駅通り・林薬局さん)の鈴木安蔵宅は、昨年国の登録有形文化財に指定され、現在「小高・はらまち九条の会」有志などで保存会設立の準備が進められています。5月下旬に、屋敷内を見学することができました。大正時代に建築された立派な商家で、居間には絵や俳句が掲げられていましたが、なんとそこに碧梧桐の「哀れなる人に時雨の句を申す 碧」の短冊が飾ってあり、大変驚き興奮しました。碧梧桐の直筆で、『三千里』に記述されている良雄の遺族を見舞う訪問を裏打ちする貴重なものです。



鈴木安蔵宅と屋敷内。
明治39年に鈴木家を
訪ねた河東碧梧桐
の俳句の短冊などが
飾ってあります。

◆鈴木安蔵は1930年代から戦後も、憲法研究の傍ら、短歌662首、俳句58句、詩2篇などの作品を「歌稿」として残しています。特に治安維持法違反で逮捕され獄中で歌作をはじめ、出獄後は「小高良雄」の変名で作り続けた。「小高」は故郷の名、「良雄」は父の名で、こだわりを感じます。作品は「冬の陽の斜に射したる獄壁に我が影長し我は凭りをり」「その子ゆゑ二十一年堪へ来しに子が業見ずのみまかりし母よ」「森閑と独り醒めたる夜の底に轟く海の悲しさ」など率直に心情を訴えています。安蔵の死後三人の娘さんが『楝花ていか』の書名で歌集を出されています。

○私は事故後8年のチェルノブイリを訪ねましたが、5月に同じ事故後8年の双葉町に入り、いろいろ考えました。チェルノブイリでは核災だけのため時間は停止したまま。福島は時間の進行が感じられました。地震、津波、核災の複合災害のために、地域の荒廃、崩壊による核発電も事故も憲法22・25条を侵し、鈴木安蔵宅もご家族の現在の状況が、象徴的にそのことを示していると思っています。

<文責・事務局>

<事務局から・お薦めの若松丈太郎氏の3著作>

- 『詩文庫No.14 若松丈太郎詩選集一三〇篇』コールサック社・1500円+税
- 『詩集・十歳の夏まで戦争だった』コールサック社・1500円+税
- 被災体験『福島核災棄民』コールサック社・1800円+税 若松氏の原発事故被災体験記。詩「神隠しされた街」を加藤登紀子さん作曲で歌うCDが、付録についています。

<鈴木安蔵を知るために> ◇映画『日本の青空』大澤 豊監督作品 2007年製作

- 『鈴木安蔵先生から受け継ぐもの・鈴木安蔵先生生誕百年記念シンポジウムの記録』2005年・発行者：金子勝(非売品) <現在 絶版で、再版が待たれています>
- 『おだかの人物』鈴木安蔵(執筆 金子勝) 2006年・発行：南相馬市
- 『福島県が生んだ平和と人権の先駆者たち・日本国憲法の間接的起草者＝鈴木安蔵』執筆 吉原泰助 福島県九条の会ブックレット1 ¥100
- 『吉野作造研究』第12号2016年4月・鈴木安蔵氏(執筆 金子勝) 発行：吉野作造記念館
- 『フクシマ・抵抗者たちの近現代史 鈴木安蔵』柴田哲雄著 ¥2200+税 2018年 鈴木安蔵を多面的に捉え、「転向」や大東亜共栄圏や戦争の肯定、終戦の直前には福岡の西部軍管区報道部にいたことなど、厳しい時代の中をどう生き、その反省、さらに「安蔵だったら原発事故にどう臨んだらだろうか」などを考えさせる深い内容の記述です。